

【みえの遺跡紹介】いなべ市 宮山遺跡

宮山（みややま）遺跡は、三重県北部の員弁川（いなべがわ）の支流・青川の付近にある遺跡です。この遺跡は、弥生時代中期（約 2000 年前）に磨製石斧（ませいせきふ）をつくっていた集落であったことがわかりました。

ここでは、製作途中の石斧や製作中の失敗品が多く出土し、完成品はほとんど出土しませんでした。完成直前の段階まで仕上げた石斧を、周辺の集落に供給していたものと考えられます。

宮山遺跡の石斧には、青川の上流で採れるハリアロクラスタイトという石材が用いられています。ハリアロクラスタイトは玄武岩質の溶岩が海底もしくは水中で形成された岩石です。調べてみると、宮山遺跡の石斧と同じ成分のハリアロクラスタイト製石斧が、東海地域にいくつも見られることがわかりました。県外では愛知県清須市の朝日（あさひ）遺跡、あま市の阿弥陀寺（あみだじ）遺跡、県内では四日市市の菟上（うながみ）遺跡、津市の納所（のうそ）遺跡、明和町の金剛坂（こんごうざか）遺跡など、広い範囲で交流があったこととなります。

宮山遺跡で見つかった磨製石斧関係資料は、弥生時代における石斧の製作工程や地域間交流の実態、社会的分業のあり方を解明する重要な資料として平成 19 年に県の有形文化財の指定を受けました。

宮山遺跡の発掘調査報告書は、こちらでご覧いただけます。

（第 1 次調査）

<https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/maibun/da-tosyo/maibunDetail?mngnum=785935>

（第 2 次調査）

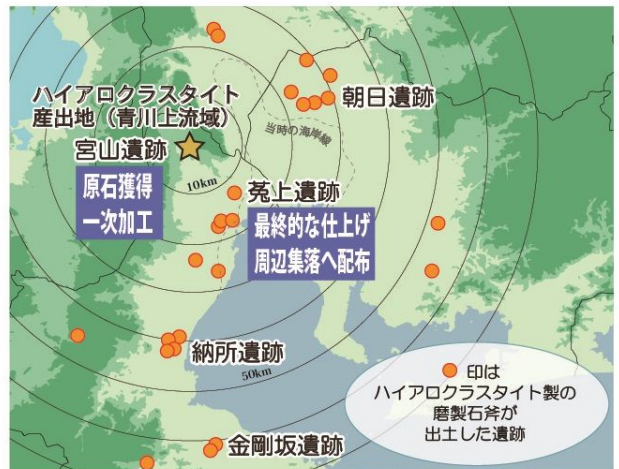
<https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/maibun/da-tosyo/maibunDetail?mngnum=786193>

（活用支援課）



せきふ りゅうつう
石斧の流通

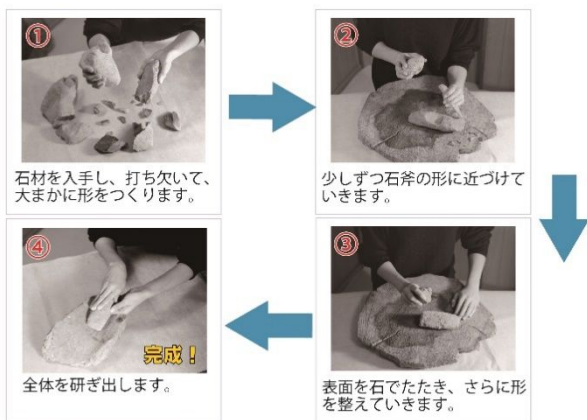
石斧の流通



ハイアロクラストイト製磨製石斧の流通

三重県歴史文化財センター『菟上遺跡発掘調査報告』(2005)、
櫻井拓馬『伊勢湾沿岸における弥生時代磨製石斧の製作技法とその評価』『研究紀要』20号、三重県歴史文化財センター(2011年)から作成

ハイアロクラストイト製磨製石斧の流通



磨製石斧ができるまで
磨製石斧ができるまで



宮山遺跡で見つかった製作途中や失敗品の磨製石斧



宮山遺跡遠景 (右上に流れる川が青川)